

部活動の地域移行について

◆令和5年度から令和7年度末までを改革推進期間として位置付け、部活動を学校単位から地域単位の取組みとし、休日の部活動から段階的に地域移行していく。

本市中学校の現状と要望

本市の目指す姿と改革の方向性

今後のスケジュール

地域移行に関して

- ・休日だけでなく、平日も含めた地域移行を望んでいる。（平日と休日の指導連携が必要であり、休日のみの移行は、かえって負担増となる可能性がある。）
- ・部活動について熱心に指導している教員のためには兼業というシステムは作った方がよい。
- ・地域移行先で起こる生徒指導上の問題について共有・連携の必要がある。
- ・地域移行の役割として、生徒の居場所的機能を大切にするべきである。勝利至上主義のチームへの地域移行は生徒が参加しない可能性が高い。また会費や保険にかかる金銭面での補助がないと参加できない生徒が出てくることが考えられる。
- ・中体連の大会要項等は基本各競技毎に管理されており、今後試合出場要件が変更されるとしても各競技によって内容の差が出ることも考えられるので、実施可能競技の判断については、各競技の中体連の要項の変更内容を注視する必要がある。

部活動指導員に関して

- ・部活動指導員は各中学校とも現在配置している外部指導員（無償ボランティア）を充てることも可能。試合の引率や審判が可能になる。部活動指導員を配置することで、顧問の人数を減らすことができ、他の部活動顧問に活用できる。等々)
- ・上記以外の部活動指導員についても、特に専門性を有する審判が必要な部活について部活動指導員を配置してほしいという要望が大きい。（バスケットボール・バレーボール等）但し募集するならば、学校の部活動方針への理解が深い等、一定の募集要件を課す必要がある。

生徒の運動及び文化活動の機会確保と教職員の負担軽減の両方を実現できる部活動改革をめざす

【Aパターン】
センター集中方式で地域に移行する
 →R6より実施

両パターンの実現
をめざす

【Bパターン】
地域の方に部活動指導員として来ていただく
 →R5より先行して実施

A. 内部組織の構築・会議体の設置
 ・学校教育課・生涯学習課定期会議の実施、運用内部組織の構築

B. 外部組織・指導員の確保
 ・体育協会、スポーツ少年団、はすねクラブ、民間企業との打合せ、その後実施可能な外部組織の検討、調整

C. 各諸課題の解決・整理
 ・「本市中学校の現状と要望」を踏まえたシステムづくり

D. 補助金申請
 ・国、府の補助金の動向を注視、確定次第申請

R4 調査研究・体制構築期間
 主にA Bに取り組む

R5 実施に向けたシステム構築
 主にB C Dに取り組む

R6 実施開始

A. R5の配置について
 ・現在配置されている外部指導員
 ・HPからの募集
 ※各校のニーズにあわせて随時募集

B. 担当について
 ・R5は学校教育課所管で実施

C. 募集要件について
 ・（「門真市部活動指導員配置事業実施要領案」を作成中）

R4 実施に向けたシステム構築
 補助金申請・実施要領等作成

R5 募集・面接・随時配置